

平成24年度用 美・創造へ1 (116・日文・美 I・006)

1. 学習指導要領との関連

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
学習指導要領全般	・学習指導要領に示された「美術 I」の目標及び内容を踏まえ、生徒の「美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を育てる」ために適切に題材を選択、配列した。	・教科書全般
表現及び鑑賞の活動の取り扱い	・教科書を8つのテーマで編集し、表現と鑑賞の内容を適切に配置することにより、生徒が主体的に表現と鑑賞の能力を獲得できるよう配慮した。	・教科書全般
「感性」や「芸術の諸能力」、「豊かな情操」について	・「オリエンテーション」では、美術は「人間が生きていくうえで欠くことのできないものである」という強い認識に立ち、想像力や空想力の大切さをわかりやすく示した。 ・学習指導要領「美術 I」の目標にある「感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす」を踏まえ、8つのテーマを設定し、高校生に必要な基礎的な学力が無理なく身につくよう配慮した。	・2~5 ・教科書全般

2. 内容の適切度

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
編集意図の新鮮さ・明確さ	・教科書は「オリエンテーション」「空想力の世界」「身体の表象」「表現と技法」「グレート・アーティスト」「広がるコミュニケーション」「環境と美術」「現代美術」の8つのテーマで編集した。 ・「グレート・アーティスト」では、レオナルド・ダ・ヴィンチ、パブロ・ピカソ、アントニ・ガウディを取り上げ、彼らが何故に天才とか巨匠と呼ばれたのか、各自の生き方や作品を通して問いかけた。	・教科書全般 ・36~41
内容の程度、正確性への配慮	・文章は平易で、日常あまり使われない美術の用語については丁寧に解説し、また、日本人作家の人名や読みにくい作品名に振り仮名を付けるなど、十分に学習に役立つように配慮した。 ・掲載作品は、美術の教科書として必要な情報が正しく伝わるように、原作の色みに忠実な印刷を目指した。 ・作品と作家のデータは、正確さとわかりやすさに細心の注意を払った。	・教科書全般
時代への適応性及び環境への視点	・新しい表現分野の「映像メディア表現」については写真、アニメーションなどを積極的に取り上げた。 ・「環境と美術」というテーマを設け、美術の学習を通しての環境への視点を明確に示した。	・44~47 ・56~65
人権尊重及び平和教育への視点	・ピカソの「ゲルニカ」、大貫卓也の「国際人権擁護団体のポスター」や長倉洋海の写真集「きみが微笑む時」、バーミヤン石窟の写真などを取り上げ、人権や平和の大切さを語りかけた。	・38~39, 42~44, 65
我が国の美術・文化についての視点	・我が国の美術文化への興味・関心が高まるように、掲載作品の選択に十分に配慮し、我が国の美術館等が所蔵する作品も多数掲載した。	・2~5, 8~17, 20~21, 24~25, 33, 56~57

3. 学習効果への配慮

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
基礎・基本の押さえ	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生にとって「美術Ⅰ」で必要な基礎的、基本的事項はしっかりと学習できるように題材を設定し、さらに表現題材では制作過程を図入りで示すなどして理解が深まるように十分に配慮した。 	・教科書全般
興味・関心への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や図版の選択では、単に優れた作品を羅列するのではなく、高校生の心情に訴えかけるものは何かという観点から選択した。 ・多様な視点から題材を設定し、生徒が興味や関心を持ってその主題を追究することにより、より深い内容が理解できるよう工夫した。 ・我が国の美術・文化への興味・関心を高めるため、我が国の美術館などが所蔵する作品も多数掲載した。 	・教科書全般
創造的な表現の技能を高めるための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・「表現と技法」というテーマを設け、色彩学習の基礎や、高校生にとって必要な技法や材料を示し、多様な表現ができるよう配慮した。 ・高校生の生活実感に即した題材を設定し、その主題を主体的に追究することで、より深く内容が理解できるようにするなど工夫をこらした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・24~35 ・教科書全般
鑑賞の能力を高めるための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・「オリエンテーション」で美術とは何かについて語りかけた。 ・鑑賞は表現と一体化させてテーマの中に位置づけて、生徒が積極的に鑑賞に取り組めるように配慮した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2~5 ・教科書全般
他教科や中学校美術との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・題材の設定に当たっては中学校美術の基礎の上に立ち、高校生の造形的な能力の発達に応じた取り扱いができるよう配慮した。 ・平和、環境、地域との関連など、美術が総合的に広がりを持って学習できるよう配慮した。 	・教科書全般

4. 造本・体裁

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
印刷	<ul style="list-style-type: none"> ・美術の教科書にふさわしく、作品のよさが正しく伝わるように、鮮明で、美しい印刷を心がけた。 	・教科書全般
製本	<ul style="list-style-type: none"> ・判型をA4変型判とし、製本形式を中綴じにすることにより、見開き図版が完全に見えるようにするなど、細部まで使いやすさを追求した。 ・折り込みページを設けることで、迫力ある鑑賞ページを可能にした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書全般 ・10~15
安全性について	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷は生徒のアレルギーなどを考慮して大豆油インキを使用した。また、表紙の表面加工にも配慮し、学習に使用するに当たっての安全性に気を配った。 	・教科書全般
環境への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・用紙は表紙・本文とも再生紙を使用するなど、十分に環境への配慮をした。 	・教科書全般